

【パネルディスカッション】安全で適正な輸血のために

演者：埼玉社会保険病院

臨床検査部 部長 前原 光江

当院はベッド数 439 床、19 の診療科を備える総合病院です。脳神経外科、心臓外科の手術はなく二次救急指定病院です。輸血管理部門は臨床検査部に所属し、認定輸血検査技師 3 名、日本輸血・細胞治療学会の I&A を取得し、輸血管理料 I を算定しています。

赤血球輸血では自己血を多く実施しています。貯血現場に検査技師が出向き、短時間に効率よく貯血を行い、VVR 等の副作用も発生していません。適合検査では、交差用の検体に採血者サイン欄を設け採血者の自覚の向上を図っています。病院機能評価受審にあたり、院内で統一した輸血マニュアルを作成しました。輸血するまでに 4 回(検査技師同士、検査技師と看護師、医師と看護師、患者のリストバンドと製剤を PDA にて照合)の確認を行い、更に「輸血の観察シート」を用いて副作用チェックも徹底しています。輸血後感染症検査は、検査連絡票を個々に渡す事に変更しましたが、まだまだ低い実施率です。病院機能評価や I&A 受審は輸血管理体制を構築する上で良い機会となりました。今年度から院内の輸血監査を開始し、更に安全な輸血医療を構築する努力をしています。